

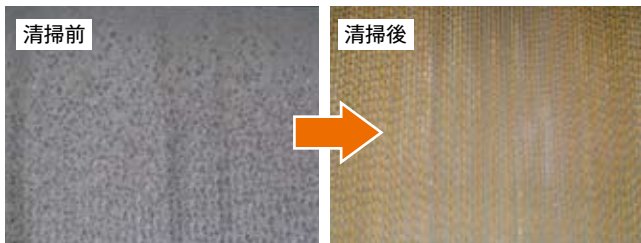


夏場対策について

～鶏・鶏舎の温度上昇を防ぐ

●暑熱による影響

鶏は羽毛が少ないとさかや目の周辺で体熱を放散し、かつ汗腺をもたないため呼吸数（パンティング*）を増やして体熱を放散する。しかし高温になると体熱の放散が追いつかず体温が徐々に高くなり、熱の産生を抑えるために飼料摂取量が少なくなるので産卵率や卵重が低下する。また、パンティングの数が増加すると血中の炭酸ガスが減り、血液 pH が上昇する。そのためカルシウムが利用されにくくなり、卵殻質も低下する。したがって、鶏にとって夏場の高温は大敵だ。夏場対策の準備には余念の無いように備えることが重要である。



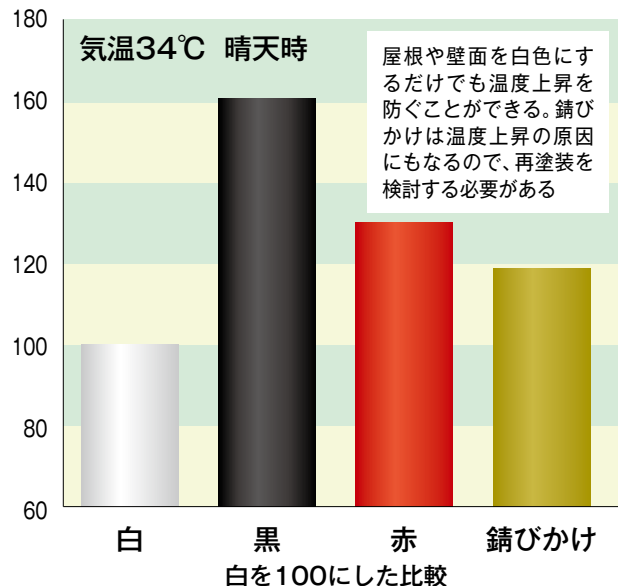
クーリングパッドを清掃することで、高い冷却効果が期待できる



屋根を石灰乳で白く塗り、表面の温度上昇を防ぐ

遮光ネットを設置して舎内への熱侵入を抑制する

図1：色による表面温度差



●舎内温度・鶏の体感温度を下げる

- ①換気扇を十分に活用することで、舎内のガスを入れ替えるだけでなく、除熱や除湿の効果も得られる。換気扇は埃が付着しやすいため、こまめに掃除をする。
- ②クーリングパッドを活用する。目詰まりしていないかどうかをチェックして掃除をする。
- ③舎内への熱の侵入を減らすために、屋根、壁、地面へ散水し、屋根を石灰乳で白く塗る（石灰乳を塗った屋根には散水しない）。開放鶏舎ではすだれや寒冷紗などで直射日光を防止することもできる。
- ④鶏に風を当てることで体感温度を下げる効果がある。さらに、細霧装置の併用でより効果が得られるため、可能であれば設置し、暑くなったら作動させる。細霧装置は短時間で霧が蒸発して消える状態がベストであり、鶏や物が濡れるような状態は蒸れて逆効果なので注意が必要だ。

●飼養管理における対策

- ①鶏は飼料摂取 2 ～ 5 時間後に体温のピークを迎える。気温の涼しい早朝に給餌し、体温上昇まで含めて昼前に終わらせるようにする。
- ②鶏の食欲を刺激するために給餌回数を増やしたり（空回転なども）、餌ならしを頻繁に行うことも有効。
- ③冷水を与えることで飼料摂取量が増える。飲水ラインの中の水を捨てて入れ替え、冷たい水を飲ませるようにする。飲水や細霧の水に水を入れることもある。冷水給水器も市販されている。

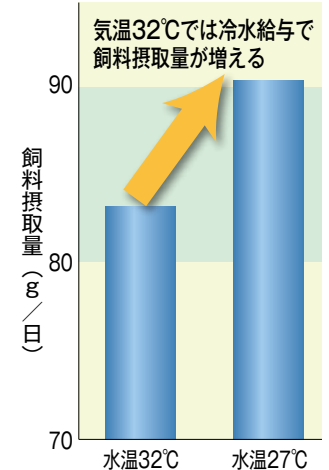


細霧装置の設置で冷却効果をねらう



水が手に入れば飲水や細霧に使える

図2：給水温度による飼料摂取量の変化



(Bell ら、1987)